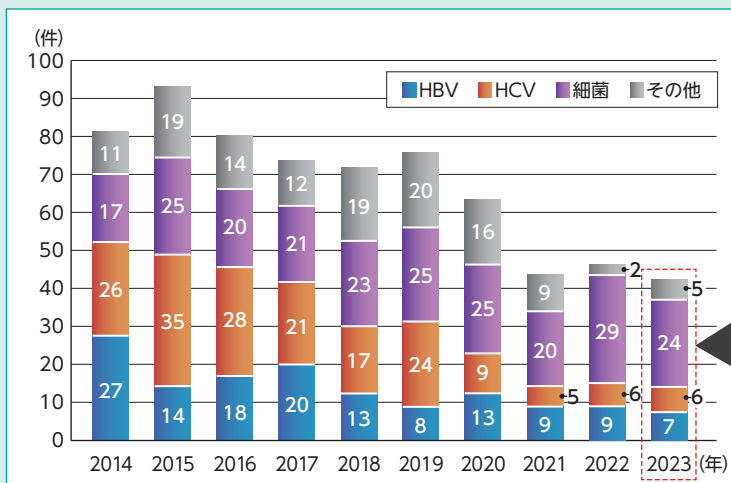


輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例 -2023年-

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2023年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例(自発報告)及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の検体等にウイルス核酸や細菌が検出され、輸血による感染と特定された症例は、HBV 2件、細菌 3件でした。

輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例数の推移と2023年に報告された病原体別の症例数とその解析結果



病原体	報告件数	特定
HBV	7	2
HCV	6	0
細菌	24	3
HEV	1	0
CMV	3	0
VZV	1	0
計	42	5

症例概要 (献血血液の検体等に病原体等が検出され、 輸血による感染と特定された症例) -2023年-

細菌

●自発報告: 輸血による細菌感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	輸血用血液製剤 (採血年月)	原疾患	年齢	性別	症状	発現時間 (投与開始後)	輸血後の検査結果		患者転帰
							輸血用血液製剤	患者血液	
1	Ir-PC-HLA-LR (2023.2)	骨髄異形成症候群	60代	男	悪寒、倦怠感、発熱、血圧低下、心房細動、意識レベル低下、酸素飽和度低下	2時間25分	Staphylococcus aureus	Staphylococcus aureus	死亡
2	Ir-PC-LR (2023.7)	骨髄異形成症候群	70代	女	戦慄、発熱	約5時間	Staphylococcus aureus	Staphylococcus aureus	回復
3	Ir-PC-LR (2023.10)	骨髄異形成症候群	60代	男	悪寒、戦慄、発熱、酸素飽和度低下	約2時間40分	Streptococcus agalactiae	Streptococcus agalactiae	回復

HBV

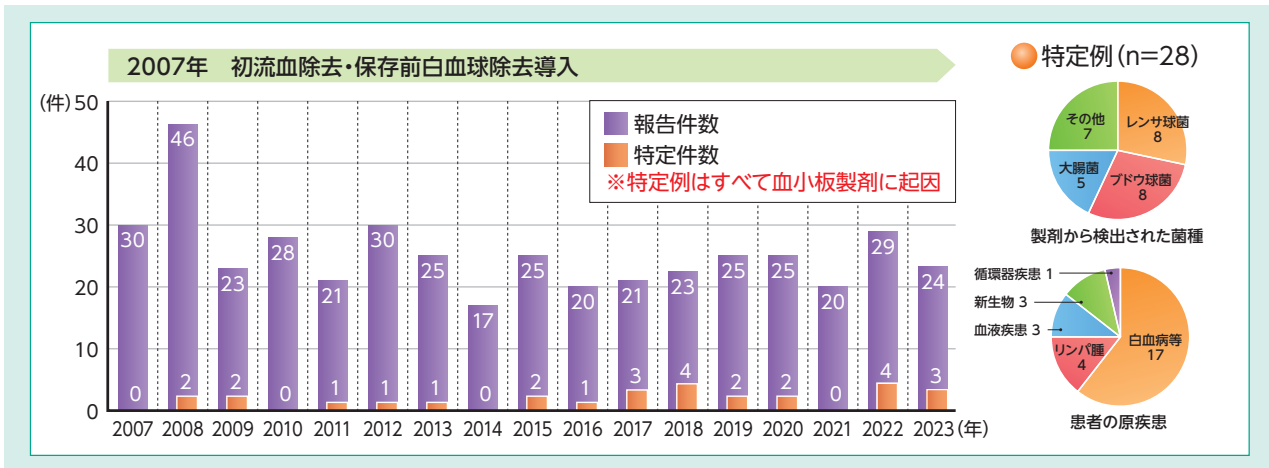
●献血後情報: 献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により判明した事例

症例 No.	輸血用血液製剤 (採血年月)	原疾患	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	Ir-RBC-LR* (2023.4)	直腸癌	70代	女	HBV-DNA、HBs抗原、HBs抗体、HbC抗体	陰性	HBV-DNA	8週	◆	◆	未回復
2	Ir-PC-LR (2023.8)	急性骨髄性白血病	70代	男	HBV-DNA、HBs抗原、HBs抗体、HbC抗体	陰性	HBV-DNA、HBs抗原	14週	◆	◆	未回復

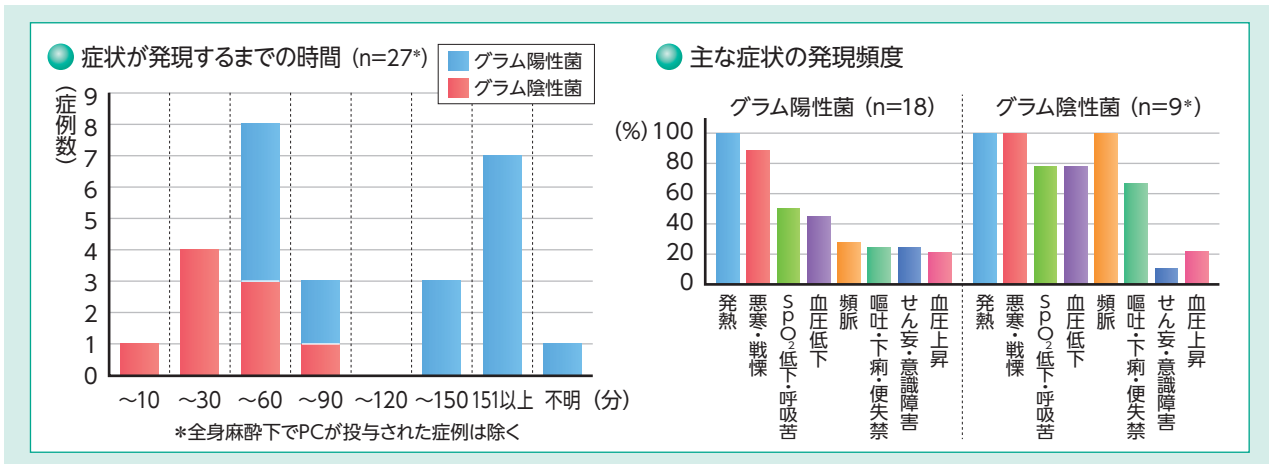
* 個別NAT導入後、初めての赤血球製剤による感染特定症例 ◆比較データなし

輸血後細菌感染の疑い報告と特定例(検出菌種及び原疾患)

初流血除去・保存前白血球除去導入後は赤血球製剤による輸血後細菌感染症は確認されていないが、血小板製剤による感染は依然確認されており、2023年は3件が確認された。



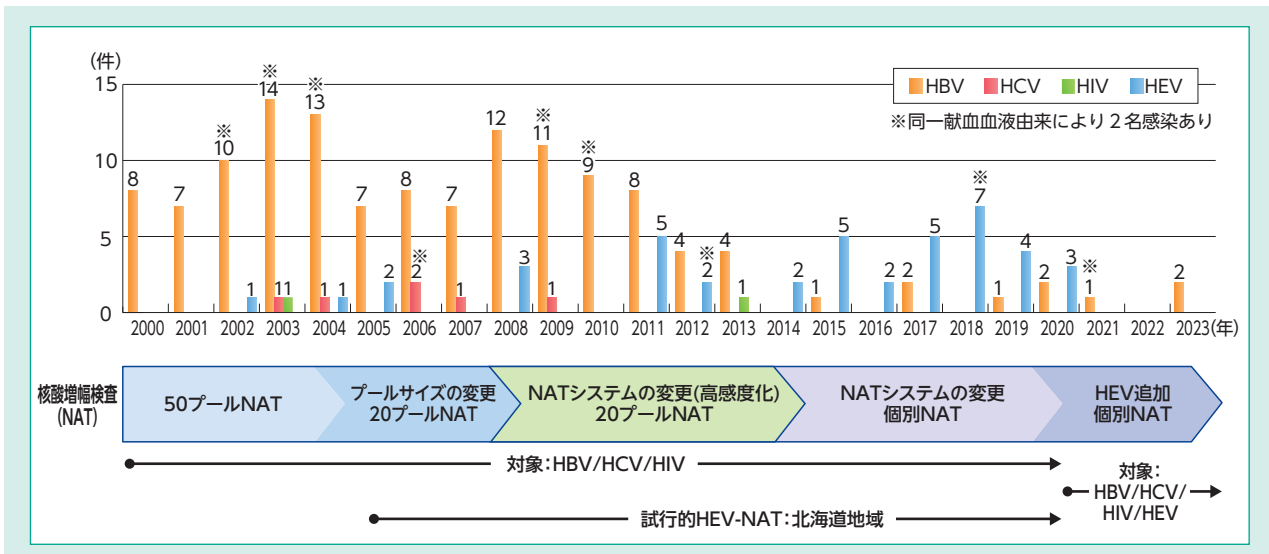
輸血後細菌感染症の症状



輸血後HBV、HCV、HIV、HEV感染症原因血液の採血年別件数と安全対策の推移

個別NAT導入後は10件の輸血後HBV感染が確認されており、2023年は2件確認された。

輸血後HEV感染は2020年8月よりHEV-NATを導入してからは確認されていない。



輸血情報 2408-182

(発行元)

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号
※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター
医薬情報担当者へお願いします。



日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報 検索



スマートフォン・タブレットにも
対応しています。

